初等部

広島原爆投下時のお話を伺う

清水夏希

戦後 80 年という節目の年。初等部の児童と社会科で歴史を学びながら、単なる「記念の年」で過ぎ去るのではなく、子どもたち自身が事実を知り、受け止め、戦争について想いを巡らせる経験を大事にしたいと考えていた。その機会の一つとして、高学年を対象に武蔵野けやき会（武蔵野市原爆被害者の会）会長の松田隆夫氏より、体内被爆者としての思いを語っていただく時をもった。当日児童は、被爆体験を「昔の出来事」として聞き流すのではなく、当時を想像し、興味をもって考えながら聞くことができた。

Ⅰ.はじめに

歴史を学ぶ子どもたちにとって、第二次世界大戦は遠い昔のことで、なかなか身近に考えることが難しいと感じている。そこで近年は、自由学園図書館資料室と連携して戦時下の初等部の様子を伺う機会をもつことや、自由学園の敷地内に戦中亡くなった方々の碑があることを授業で扱う等の実践をしてきた。

戦後 80 年の年、子どもたちが戦争や原爆について向き合う時を例年以上につくっていきたいと考え、児童の実態に合わせながら授業の計画を立てた。まず6月の沖縄慰霊の日。小学校 6 年生の児童がスピーチをする様子を映像で見た。同年代ということもあり、何を、どのような思いで伝えようとしているか、言葉を大切に聞くことができた。

そして夏休み前、メディアで盛んに取り上げられていた戦後 80 年関連のニュースやドキュメンタリー番組、あるいは博物館や美術館での戦争に関する展示や映画などに注目し、自分からフィールドワークに出かけたり、実際に見たり聞いたりする課題を提供した。過去の戦争について「よく知る」機会を得ること、そして現在の戦争についても考えを深めてほしいと、児童に呼びかけた。保護者の方の協力も得ながら、いろいろな展示を目にしたり映像を見たりして、よく考える時間をもつことができた人が多くいた。

更に、直接戦争を体験された方からお話を伺える機会をもてるようにしたいと思い、以前より武蔵野市を中心に活動を行っている松田氏に依頼。授業で歴史を学ぶ 6 年生と、歴史や原爆の被害に関して理解を深める発達段階にある 5 年生を対象に講演会を企画した。

Ⅱ.当日の様子

講演当日、松田氏は約70枚の絵を持参してくださった。「子どもたちにも当時の様子が伝わるように」と用意されたのは、当時の記憶をたどりながら描かれた絵の数々。子どもたち一人ひとりの手元に、1 枚ずつ手渡された。

絵から伝わってくるものは、教科書の説明や文字だけでは感じ取ることのできない、壮絶な体験。目の前の 1 枚と向き合った子どもたちは、周囲の友達と絵を交換し合いながら、何枚かの絵を手にした。80 年前、その場所にいた人のことを想像しながら、真剣に見ていた。



2-1 絵を見ながら講演を伺う

松田氏は、ご自身は胎児被爆されたこと、ご両親や親戚がそれらの被爆の経験を語らなかった事実、その裏にある苦悩や悔恨に加え、原爆が正義と考えられてしまう現実がいまだにあること等、事実や想いを一つずつ丁寧に話してくださった。児童からは、絵についての質問の他、現在起こっている戦争や核兵器の現状と併せて考えながら「どうしたら平和になるのですか」という投げかけもあった。一人ひとり感じることがあり、各々が深く考えている様子であった。



2-2 講演を行う松田氏



2-3 会場の様子

講演の後、数人の児童が、松田氏のもとへ寄っていった。「まだお話を聞きたかった」「もっと知りたいことがあった」という切実な想いが込み上げてきたようだった。与えられたお話をただ受け取るだけでなく、自ら思いをもった子どもたちの熱量を感じる一幕であった。

初等部生は毎日、その日を振り返りながら日記を書いている。当日の日記には、「絵を見ながら話を聞きました。絵はどれも悲惨なものでした。二度と起きてほしくないと思いました。」「絵を見て、とても心が痛くなりました。なぜなら、真っ赤になった体でボロボロの形の人の絵や、体が熱くて川に飛び込んで亡くなる人の絵がかいてあったからです。原爆は範囲が広いため多くの被害がありました。もう戦争なんて絶対にしてほしくないです。」「改めて戦争は二度と起きてはならないもので、これからもそのことを伝えていくことが大切だなと思えた。」「戦争は絶対に起こしてはならない、それが私の願いです。」という文章を記す児童もいた。

Ⅲ.最後に

私たちは今、歴史の記憶をどのようにして未来へ繋いでいくことができるのか、という問いを与えられているように感じている。

80 年という時の隔たりがあっても、生きた言葉や記録に触れ、自分の心で考えた経験は、子どもたちの中に「平和を守り続ける意志」が小さく芽生える機会になったのではないだろうか。子どもたちの示した「もっと知りたい」という姿勢や感想から、深く考える経験の大切さ、必要性を教わることができた。

今回、会の開催にあたっては、自由学園資料室の方々に協力をいただいた。また、当日は広島研修旅行を控えた中等部 3 年の生徒数名と教師、学部の学生や教師も数名、講演会に参加された。

今後も、初等部児童に限らず、自由学園全体で、戦争被害や核兵器廃絶に関する話題に興味関心をもち、自分たちができることは何か深く考えること、そして考え続ける姿勢を大切にしていきたい。